傷痕(虐待より)

慶太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

小説タイトル】

傷痕 (虐待より)

N 1 1 ド J D

【作者名】

慶太

【あらすじ】

信じていた杉本達にぼこられた慶太の行動は!?

僕は誰もいない奴等のアパートを出た

駐車場には奴らの車はもうない

僕は今、自分で何をしたいのか分らない

裏切って逃げた千代子を助けたいのか?

それとも杉本を殺したいのか?

それとも此処にいて奴等を待つのか?

そんな僕は一つの方法に出た携帯を出し

110をした。

あの一今、僕レイプされてる女の人を助けようとしたんですが

女の人が車にさらわれちゃいました」これが僕の精一杯の

今できる事。警察には車の種類とナンバーをおしえた。

そして、次に彼女に連絡した『け・・・慶太?何で掛けてくるの?

あいつ等其処にいんの?』「いないよ、 けど千代を探してる。 今か

ら俺の言うこと黙って聞いて」『え?』 僕は警察に言った事を話し

た千代は震えた声で『何で』と何度も問う

僕は泣いてる千代に言った「もう、傷つくのはなれちゃっ た

きっと僕の言葉の意味は千代には伝わらないだろうけれど

僕は千代を傷付けたくない千代が未だ好きだから最後に千代は『ア

ンタ程の馬鹿、 初めてだよ』 と言って電話を切った。 僕はその後、

彼女のアドを全て消した。

翌日、 杉本等の事がニュースで短く報道され た。

千代はあの後、やはり彼らに捕まってボコボコにされていたらしい

其処へ捜索中の警官に助けられた

そして、 彼らは未だ僕の考えた事を千代のでっちあげだと

否認しているらしい

彼らに会えて最初は楽しかったけど

僕の前 には僕 の好きだった杉本さんも千代もい ない

これからまた、変わりない日々が始まる

生産科の中村君、 正門玄関にお客様がお見えです

其処には信じがたい姿があった

三角巾と頭に包帯を巻いた千代がいた

彼女は静かに僕に近づき青く腫れた僕の唇にキスをして

『私を本気にさせたんだから、 あんたの傷なんて私が消してやるん

だから』

僕は寂しく笑っ て「ありがとう、 御免ね」と言って仕事に戻ろうと

足を運ばせる

千代は泣いて いる。 嫌だ、 行かないで!慶太の事、 傷つけてやっと

分かったの

お願 した 61 お金なんていらない』 彼女は自分の財布から全ての 物を出

婚しよ。

そんな彼女の姿は見たくない此処で振り返っ

たらきっと

結

の足がただ止まった彼女は泣きながら僕に近づき僕の背中の服を

掴んだ

振 り払おうとしたけど彼女はそれでも強く握って 11

僕は心の中でこれで最後だと囁き「い い加減に しろ」と

彼女を突き飛ばした彼女の吃驚した顔を母と思 い浮かべて

彼女を思い切り平手で叩いた

そして、僕は仕事に戻った

ホントは嫌だったこれ以上自分が傷付くのが

彼女の言葉を信じてやり直しったって

きっともう、何所かで彼女を疑って

彼女も自分も今以上に傷つくだろう

短い間だったけど夢は痛みと一緒に覚めた

現実と傷 (後書き)

た。 なんと言ったらいいのでしょうかつまんないエンドの方が私的には 最後にハッピー エンドにしようか迷っ たのですが 好きなのでバットでもないハッピーでもないエンドで終わらせまし これで終わりです ま、見る方はいないと思いますがでは ホント駄作ですいませんでいた。 今度も又つまらんもんかきま

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 などー 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 ています。 の縦書き小説 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 の タイ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n1551d/

傷痕(虐待より)

2010年10月15日22時00分発行